

# 令和3年度 特定非営利活動に係る事業報告書

特定非営利活動法人  
たてやま・海辺の鑑定団

## 1. 事業の成果

50年後の地球環境、我が国の自然環境、地域の自然環境、沖ノ島の自然環境を見据え行動した。そのための出来ること「自然環境を守り・伝える」ことを持続可能な方法で行い、未来を生きる子供たちのための地域の安全安心な自然環境と生活環境の実現に寄与することを目指した。

活動の中心である沖ノ島は8/3～9/30まで再び閉鎖となり、影響を受けた。

公の支援（コロナ給付金などを受ける形）を受けた。

### (1) 自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業

#### ①自然体験活動

##### ◆沖ノ島定期開催活動 約130人参加

- ・土曜日午後 日曜日 祝日（夏季と8/3～9/30は閉鎖となり開催しなかった。）
- ・チラシは3000部作成し地域にもアピールを行った。
- ・魅力の掘り起こし→現地再調査し、3コースを作成した。
- ・運営マニュアル作成を継続し一般化目指したがマニュアル完成は持ち越しとなった。
- ・リーダー育成継続、質を上げる方法検討を継続した。
- ・じゃらんととの連携を試行継続した。
- ・森の再生活動に関しては、お話を中心に行った。

##### ◆スノーケリング活動 134人参加

- ・8/2～9/30は閉鎖となり開催期間が短くなった。
- ・募集開始時期を5月から行う計画であったがウラカタ導入により6月からの募集開始となった。
- ・沖ノ島スノーケリングの運営マニュアルを見直し、徹底した。
- ・備品などの検討を行い、メーカーAQAとの連携を行った。
- ・メンバー増強、リーダー育成を図ったが期間が短く実績とはならなかった。

##### ◆クラフト体験(イベント含)

- ・イベントPR活動はコロナ禍で行うことができなかった。

##### ◆つり体験

- ・ちょい投げ釣り（随時募集型）を行い、個人グループ対応で実施し3グループが参加した。
- ・釣具メーカーや地域釣具店と協力した釣り大会と釣り教室を10月3日と10月24日に実施し教室14人、大会60人が参加し釣りやマナーの啓発を行った。

#### ③環境学習体験活動

コロナ禍の影響で、上期は減少傾向、8/3～9/30は沖ノ島閉鎖であったが、10月以降の受け入れが多かった。保全の活用化メニュー作り、アマモ場再生、森の再生を取り入れたプログラム作りを図り、一部プログラム化を行った。トータル2,740人の受け入れとなった。

◆修学旅行・体験学習など沖ノ島団体受け入れ

- ・足立区鋸南自然の家へのアプローチを行ったが、コロナ禍の影響を受けたが10月以降に行うことができた。
- ・島の再生活動を内容に盛り込み2団体の実績があった。

◆他地区との連携

- ・千葉自然学校との連携を行い5団体の実績があった。
- ・環境教育ツール2021年度版ツール（リーフレット）作成を継続している。

(2) 自然環境保全活動及びその普及啓発活動に関する事業

①環境保全活動（実践）アマモと森の再生

◆アマモ場再生の実践（地球環境基金）

5月移植 6月花枝採集 9月選別 11月種まき 冬移植を行った。

延べ70人が参加した。

学校との連携によるアマモ場再生を行った。館山総合高校・安房高校との連携を行った。

- ・2017・2018・2019・2020年度までの活動では、ノウハウを得る事が出来たが、残念ながら食害が原因と思われる移植したアマモの消失により再生が出来なかったため、アドバイザーの指導・協力により継続した。
- ・アマモ場再生に関わる、ヤマリアとの連携により、アオリイカ産卵床の設置し、9月に産卵を確認した。
- ・アマモ場再生のための定点調査を実施した。（外部委託通年 空撮を一度行った）

◆海岸清掃

- ・JEANクリーンアップ海岸ゴミ調査清掃を10月10日に実施し、40人参加した。（自主開催主催）
- ・館山市鏡ヶ浦クリーン作戦春に参加した。
- ・沖ノ島について考える検討会議を通じてルール策定・地域ルール・活動のルール提案を行った。

◆森の再生活動

・年14回 内ワークショップ5回開催した。（館山市連携・地球守連携・地球環境基金・セブンの森協定・千葉のWA助成・館山市補助金など活用）総勢約450名で実施した。特に安房高校と連携し高校生延べ約80人が参加した。

②環境啓発活動

◆ガイドブック（海辺の生き物語）

- ・ツールとして活用し、啓発活動を行った。約150冊活用

◆沖ノ島の自然環境の「大切さ」を多くの人に伝える普及啓発のためのシンボルマーク（沖ノ島環境保全プロジェクト）を地域住民や来訪者の協力のもと活用した。

（2021年以降沖ノ島の環境保全のためのシンボルマーク等取入れたツール（遊びつくすガイドブック約18,000部・Tシャツ・幟旗）を、戦略的、効果的に活用し普及啓発を行った。

◆ビジターセンター パークレンジャー活動を継続した。8/2から緊急事態宣言により沖ノ島が閉鎖となった。

- ・海水浴期間中のゴミ拾いタイムの設定し、開設期間中は、ライフセーバーと連携し実施した。

◆地域啓発イベントの実施 里海博2021（開催） コロナ禍、のため11月から翌2月に延期したが、感染状況により、オンライン開催とし、78組の参加があり、啓発につながった。

◆2021年度 委託事業沖ノ島環境保全協力金事業を実施し、約320万円の実績があった。（8/2まで実施、以降沖ノ島閉鎖のため）

- ・館山総合高校・安房高校との協力をし安房高校生徒 11 名が参加した。
- ・協力金事業のブラッシュアップを館山市に 10 月に市長提案を行った。
- ◆指導者養成講座を 4 月に実施し、7 名が参加し、2 人がサポートスタッフとなった。(地球環境基金)
- ◆YouTube チャンネルを活用し、映像コンテンツを作成 24 本掲載し、267 人が登録しオンラインによる普及啓発を行った。

### ③調査研究活動

- ◆地域のエコツアーリズム研究を行った。実績として第 17 回エコツアーリズム大賞の優秀賞となった。
- ◆地域資源調査 新しいプログラム開発に繋がる資源とアイデアを模索した。
- ◆全国アマモサミット青森に 2022 年 1 月に 3 名で視察した。また 2022 年度は館山開催となった。
- ◆認定 N P O 法人の研究 沖ノ島仕組みづくりを行っている。
- ◆勉強会は、コロナ禍であったが CPR 及び SDGS 勉強会と釣り勉強会を 6 月 13 日に開催し、関係者 13 人が参加した。
- ◆NPO 法人地球守の昭和の森の再生活動に 9 月 6 日に 1 名参加した。(地球守ワークショップ)

## 2. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
(1) 自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業	①自然体験活動 ・沖ノ島定期開催 ・スノーケリング体験 ・釣り体験 ・釣り大会・釣り教室	通年 夏季 通年 10 月	沖ノ島 沖ノ島 近隣海岸 夕日栈橋	20 人 20 人 5 人 20	地域住民および来訪者 約 130 人 134 人 3 グループ 教室 14 人、大会 60 人
	②環境学習体験	通年	沖ノ島など	160 人	学校関係、教育団体等 約 2740 人
(2) 自然環境保全活動及びその普及啓発活動に関する事業	①環境保全活動 ・アマモ場再生活動 ・海岸清掃(JEAN) ・森の再生活動	通年 10 月 通年	沖ノ島周辺 沖ノ島 沖ノ島	100 人 10 人 150 人	地域住民、来訪者 不特定 約 70 人 40 人 延べ 450 人
	②環境啓発活動 ・ガイドブック(海辺の生き物語) ・普及啓発イベント ・沖ノ島環境保全協力金 ・指導者養成講座 ・YouTube チャンネル	通年 2 月 7 月 4 月 通年	地域の書店 観光施設 オンライン 沖ノ島周辺 沖ノ島・大房 オンライン	10 人 10 人 30 人 10 人 5 人	地域住民、来訪者 不特定多数 約 150 冊活用 里海博 78 組 沖ノ島来訪者不特定 地域内外 7 名 267 名登録 不特定 多数
	③調査研究 ・全国アマモサミット視察 ・SDGS 等勉強会 ・地球守ワークショップ	1 月 6 月 9 月	青森 館山市など 千葉市	3 人 5 人 1 名	団体メンバー 等 団体メンバー等 11 人 団体メンバーなど